

令和 2 年度血液製剤使用適正化方策事業

中小規模医療施設における適正な輸血療法展開のための
多方面施策の推進

研究報告書

茨城県合同輸血療法委員会

はじめに

2019 年末から世界に吹き荒れた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は当初の予想を超えて繰り返し流行を起こしている。そのために多くの医療人は何らかの形で新型コロナウイルス（SARS COV-2）への対応の役割をこれまでの業務に加えて背負っている。更に SARS COV-2 の蔓延を止めるため繰り返し外出の自粛、集会の制限を求められ医療施設間の交流は全く出来なくなっているばかりか、同じ職場の中でも集合することは禁止されてきている。

それに対しては、on line 会議、セミナーが徐々にこれまでの直接面談型の集合形態に置き換わるようになってきている。しかし、インフラ整備が整うのに時間を要している施設やインターネット環境に不慣れな個人が情報の共有から取り残される現実が生じている。

茨城県合同輸血療法委員会の委員もそれぞれの施設で SARS COV-2 への対応に多くの時間を取られていると考えられた。会議システムもそれぞれの施設で環境が異なり、参加が難しい委員も少なからず居た。

このようなことから、令和 2 年度は茨城県合同輸血療法委員会としてかつてない活動制限を受けた。

令和 3 年度は、インターネット環境が改善し、これまで以上に活動を活性化することが期待されるし、しなければならない。SARS COV-2 の蔓延により献血活動は非常に制限されている。今までなら血液製剤は関東甲信越ブロック内で調整が出来ていたが、現在は全ブロック間での調整となり、全国からの血液製剤が供給されることが当たり前になっている。輸血医療の適正化はこれまで以上に行きわたる必要があることが世界規模の新興感染症を経験することで明らかになってきた。

令和 3 年 3 月

茨城県合同輸血療法委員会 代表世話人
長谷川 雄一

研究課題

中小規模医療施設における適正な輸血療法展開のための多方面施策の推進

茨城県合同輸血療法委員会（以下、合同輸血療法委員会）では、県内で輸血を行う施設に対し、赤血球製剤の廃棄率を調査してきた。廃棄率は過剰な輸血用血液製剤の使用が計画された結果を反映し、不適切な輸血の指標となると考えられたからである。病床数を 500 床以上、300 床以上 500 床未満、300 床未満と分けた時に、平均廃棄率±標準偏差は、それぞれ 0.23 ± 0.23 、 1.92 ± 0.23 、 $5.45 \pm 6.42\%$ であった。300 床未満の施設は、他 2 グループよりも多くの廃棄率を示し、且つ、標準偏差も大きくなった。小規模医療施設では、血液製剤の使用予定が変更された場合、他の患者さんに転用することができないことが大きな理由であると同時に、適正な輸血量の判断を医師個人に任せていることが副因として考えられたことから、下記研究概要を計画した。

研究概要

1. 合同輸血療法委員会お墨付き制度の創設
2. 新しい時代に即した輸血の適正化啓発資材の作成と配布
3. 調整事業
4. ブラッドローテーション・シミュレーション

研究結果

1. 合同輸血療法委員会お墨付き制度の創設

お墨付き制度を行うにあたり、各合同輸血療法医員から意見を求めた。その結果、趣旨は賛成するが SARS COV-2 による面会制限、移動制限が出されているため、on site check が不可能であることが懸念事項として出され、お墨付き表示の公表の仕方、審査方法などを含め今後の移動制限解除、施設訪問解禁後の計画とされた。

2. 新しい時代に即した輸血の適正化啓発資材の作成と配布

合同輸血療法委員会の下部組織である看護師部会の活動の一環として、年一回行ってきた研修会に代わり、広く医療機関に配布出来る資材（DVD）を作成した。実際に輸血の実施を担当する看護師を対象に、何を重視し確認すべきか、問題が生じた際にどのように対応すべきかをまず寸劇形式で演じ、その後講義形式の学習資料、最後にセルフトレーニング問題という形式にした。

当初は、合同輸血療法委員会内の看護部会のメンバーだけで作成していたが、より良いものにするために専門の業者に業務を一部委託した。

今後完成した動画資材を県内、県外の希望する施設に提供し、自施設内での啓発・教育活動に利用して頂くことを予定している。

また、更に医師向け、事務職向け、検査技師向け資材の作成を検討していく。

3. 調査事業

輸血用血液製剤使用実態調査：県内の令和元年度供給実績上位 120 施設に対し、アンケートを実施した。95 施設から回答いただき、回収率は 79.1%である。また、自施設の問題点や合同輸血療法委員会に対する意見を頂戴しているが、新型コロナ禍における現状で出前講座等を自粛したため、今後の課題となっている。

廃棄血削減プロジェクト：アンケート調査を実施した 120 施設の内、41 施設から参加いただき、赤血球製剤の使用量と廃棄量を二ヶ月毎に調査し、結果をフィードバックして自施設の立ち位置等を確認いただいた。

更に、アンケート調査を実施した 120 施設の内、希望があった 12 施設へ、合同輸血療法委員会が作成した輸血クリニカルパスを、院内輸血マニュアル作成時の参考としていただくため提供した。

4. ブラッドローテーション・シミュレーション

ブラッドローテーションは、施設間訪問が制限されて実行が難しくなった。

更に、これまで支援を様々な形で受けてきた AMED 研究が終了したことから実際の製剤を使った検討が難しい。しかし、ブラッドローテーションの実現性に向け机上シミュレーションを多数の施設で行う計画を進めている。